

會 告

豫て本欄で御支援投票をお願いいたしました第2回日本學術會議會員は開票の結果次の通り當選されました。厚く御禮を申し上げます。

全 國 區	東京大學教授	工學博士	三 島 德 七 君
	八幡製鐵株式會社 常務取締役技術部長	工 學 士	湯 川 正 夫 君
地 方 區	京都大學工學部長	工學博士	澤 村 宏 君
	京都大學教授	工學博士	谷 村 獬 君

新年度の會費納入相成度御願ひ

御承知の通り會誌の發行は近頃は前金でいただきませんと到底發行を續けられません。何卒毎月絶えず發行の出來ますよう事情御諒察の上直ぐ昭和26年度會費(昭和26年1月~昭和26年12月)

維持會員

お約束いただきし口數の金額

正 會 員

500圓} 御都合で2回拂でも

學 生 會 員

200圓} 差支ありません

をお拂込み下さい。特にお願い申し上げます。

尙會費延滞の恐れある方は兎に角今直ぐ上記會費を御納入下さい。本會に着金後何年度分に相當するか調査の上これらを明記した領收證を差上げますから會誌11月號に封入して置きました振替用紙で至急お納め下さい。振替口座 東京193番。

日本鐵鋼協會々員名簿豫約發賣

久敷御迷惑をかけていました會員名簿が愈々出來上りました。現在會員の住所、勤務箇處を始め本部支部の役員、評議員、表彰者の芳名は元より本會定款、同實施細則、研究部會、資金內規に至るまで詳細掲上してあります。是非至急御申込み下さい。

— 豫 約 申 込 要 綱 —

1. 體裁及實費賣價 A 5判 222頁 竣成發賣中

實費 1冊 150圓 (送料別に40圓)

2. 豫約販賣特價 豫約御申込みの方に限り特價100圓 (送料別に40圓)

但し豫約御申込みには必ず代金添付のこと (爲替又は振替口座東京193番を御利用下さい)

3. 豫約申込締切期日 は御便宜を圖り撤廢しました。而して2,000部限り特價100圓(送料別に40圓で差上げること)しました。無くなりませぬ内に至急御申込み下さい。

日本鐵鋼協會第41回(春季)講演大會講演募集

講演募集申込締切期日 昭和26年1月25日 開催地 東京都

期日(確定) 昭和26年4月1日, 2日

開催のこととなりましたから講演御希望の方は下記要項お含みの上奮つてお申込み下さい。

講演申込要項

- (1) 講演申込期日は昭和26年1月25日とし締切は勵行いたします。
- (2) 申込用紙はハガキ大の紙片に講演題目, 講演者(學位, 稱號, 振假名付氏名)連名のときは實際の講演者に○印を附すること, 所要時間, 幻燈の要否を書き宛先……東京都千代田區丸ノ内2の10, 仲14號館1號日本鐵鋼協會としてお出し下さい。
- (3) 申込みと同時に圖表を含み500字詰原稿用紙2乃至3枚程度の講演大要を必ず御送付下さい。講演大要には可及的に實驗研究の成果を數字的に或は圖表に依り簡潔にお示し下さい。又同一講演題目下に第1報第2報等の連續講演は御遠慮下さい。一つに纏めて講演のこと。
- (4) 前項の大要が到着しませんとお申込みを受理いたし兼ねますので申込締切期日嚴守と併せ此の點特に御諒承下さい。

日本鐵鋼協會東海支部講演會講演募集

本會東海支部では金屬學會同支部と共催のもとに昭和26年3月中旬名古屋大學工學部に於いて總會と講演會を開催いたします。講演を一般會員から募集します。特に同地方の會員は奮つて應募して下さい。

講演申込締切 昭和26年1月31日(締切嚴守)

開催場所 名古屋大學工學部内

開催期 昭和26年3月中旬(日曜日)

申込先・申込要領 名古屋市熱田區六野町, 名古屋大學工學部金屬工學科内

日本鐵鋼協會東海支部

講演申込は, 題目, 講演者, 所要時間を明記のこと。既發表の講演を更に詳細に報告されることも差支えありません。

日本鐵鋼協會『鐵と鋼』誌へ寄稿規程

(今般鐵と鋼誌への寄稿規程を下記の如く改正しましたので御寄稿の際は御熟讀願ひます)

1. 原稿用紙は本會所定のものを用いること。御請求次第一冊(30枚綴)30圓にてお送りします。
2. 論文は出来るだけ簡単にし圖表を含めて會誌5頁(400字詰原稿用紙25枚)を超えないこと。
3. 論文の冒頭には歐文のアブストラクトを記載すること。
4. 本文は成るべく常用漢字を用い、平かな交り左横書きとし、新かなづかいを用い、術語は工業標準用語及び學術標準用語を使用すること。
5. 數字は算用數字を用い、外國語は片假名にて、外國固有名詞は原語のまま記すこと。
6. 圖・寫眞・表はなるべく少くし(圖、寫眞は10個以内に制限)同一事項を圖表兩方にて表わすことを避け、次の要領に従うこと。
 - (イ) 圖及び寫眞は圖毎に別紙とし、圖は白紙又は淡青色方眼紙に墨できれいに畫き、直ちに凸版にできるようにすること、青寫眞は使用しないこと。
 - (ロ) 圖は幅が70mm程度に縮寫しても圖中の文字が明瞭に判讀できるように適當の大ききとすること、但し文字は鉛筆書にされたし。
 - (ハ) 圖・寫眞・表等の挿入箇所は豫め原稿中に指定し、表はなるべく本文中に挿入すること。
7. 數字は印刷に便なるように注意し、文中に挿入するときは a/b , $x/(a+b)$ のように記し、行の上下に出ないようにすること。
8. 各種單位、記號及び數量を表わすには次の例に従うこと。

km (キロメートル) mm^3 (立方ミリメートル) SK01a~02a (セーゲル錐零一乃至零二番)

m (メートル) cm^2 (平方センチメートル) 10.35 圓 (十圓三十五錢)

cm (センチメートル) kg/cm^2 (毎平方センチメートル・キログラム) 56,350 (五萬六千三百五十)

mm (ミリメートル) kg/mm^2 (毎平方ミリメートル・キログラム) 1948 年 6 月 (千九百四十八年六月)

t (トン, 1000kg) % (パーセント) 78—85°C (攝氏七十八度乃至八十五度)

kg (キログラム) cal (カロリー) Cr-Mn-W 鋼 (クロム, マンガン, タングステン鋼)

g (グラム) Kcal (キロカロリー) mg (ミリグラム) hr (時)

m^3 (立方メートル) min (分) l (リットル) sec (秒)

cc (立方センチメートル) 1/2N (二分の一規定)
9. 抄録、譯文及び文獻の出所は著者名、雜誌名、發行年度、卷數、號數、頁數の順に記載すること
10. 原稿は編集委員會に於て取捨變更することがあるから豫め御了承せられたい。